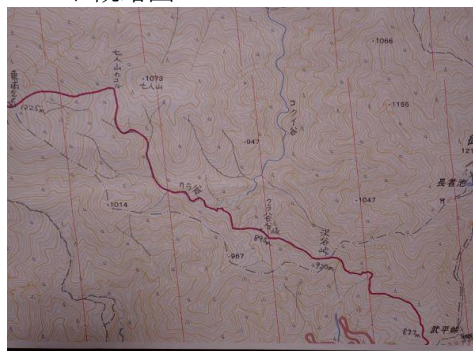


10月8日 雨乞岳

平尾 繁和

山名	雨乞岳 (1,138m)	山行名	例会
ルート	武平峠～沢谷峠～クラ谷分岐～七人山のコル～東雨乞岳～雨乞岳～東雨乞岳～七人山の コル～七人山～七人山のコル～クラ谷分岐～沢谷峠～武平峠		
山行日	2022年10月8日(土)	天候	曇り時々晴れ
参加者	CL平尾、SL徳田、伊藤多、蒲田、永井、西川洋、廣瀬、山下隆、米田/9名		

ルート概略図



コースタイム

地名		時：分	地名		時：分
武平峠①	着		東雨乞岳⑧	着	13:15
	発	8:50		発	13:20
クラ谷分岐④	着	10:10	七人山のコル⑦ 七人山	着	13:45
	発	10:15		着	13:55
七人山のコル⑦	着	11:35	七人山のコル⑦	発	13:57
	発	11:40		発	14:10
東雨乞岳⑧	着	10:50	クラ谷分岐④	着	15:20
	発	10:51		発	15:25
雨乞岳⑨	着	10:55	武平峠①	着	16:40
	発	11:40			

3連休初日、運よくこの日だけ予報は晴れ。新名神土山SAで2台が合流。武平トンネルを抜け西駐車場に8時15分到着、はほぼ満杯なので、登山口西道路脇の樹木間に停める。武平峠登山口が①でゴールの雨乞岳が⑨の標識をひとつずつたどっていく。植林地の山腹を巻く崖の細い道から幾つか谷を渡り小刻みにアップダウン。踏み跡が幾筋もあり、木の根が張り出したり大きい段差があったりと少々てこずる。沢谷峠は山腹道から広いコルへ出た所。まっすぐ進むと三人山方面、遭難多発?の看板あり。地図で確認し右手の谷筋をゆるやかに下りていく。時々「雨乞峠」の標識はあるが、テープをたよりに薄い踏み跡の道をたどる。きれいな透明な沢に沿い、水の響きと広葉樹の明るい林が心地よい。トリカブトの花の群生がたくさん見られた。参加者から、この景観は「芦生の森」を思い出すと。④のクラ谷分岐から狭い谷を歩きロープのある右手崖を上がり左岸を進んでいく。岩をつかんでの谷渡りや小さな渡渉が何度かありと変化に富んでいた。七人山のコルにつく。元気な午前中に七人山の往復を考えていたが、先に雨乞岳に行き、帰りに時間と参加者の状況を見て行くことにした。風が出てきて寒くなったので上着などを身に付け東雨乞岳の急登に向かう。左手に鎌ヶ岳、振り向けば御在所岳が見える。右手には6月例会で行ったイブネの水平な山頂部が見える。背丈を超えるササのトンネルを足下に注意しながら上り詰めると、東雨乞岳に到着。風が強く、吹き曝しで寒い。すぐ雨乞岳まで往復することにした。途中、雨乞岳の方からガスが上がってきてみるみる間に回りは真っ白になった。山頂は樹木もなく風を防ぎようもないがササの陰で食事を早々に済ませ引きかえす。東雨乞岳を下りだすと、また鎌ヶ岳、御在所岳、イブネが見えだした。七人山のコルで休憩、衣服調整。荷物を置いて七人山を往復。クリやミズナラ、シロモジの疎林にブナの木が混じる。山頂部は広々とし気持ちのいいところだった。コルからは慎重に引返す。③を過ぎた頃か、上からB5 ノート大の薄い石が落ちてきて腹にあたる。幸いなんともなかったが、見上げると上にサルが2匹ほどいた。声を上げるとそのあと何匹かもやってきて悲鳴を上げていたが早々に通り去ることを呼びかけた。段差や終盤のアップダウンに苦しめられながらも、最後まで気を抜かず集中して下山した。16:40分目標よりは40分おくれたが無事武平峠登山口に到着した。標高差は500m弱だが、距離は10km近くで累積標高差が結構あり狭い崖路や岩、前日の雨でぬれた落葉など予想よりかなり楽でないコースだったかもしれない。今後、できるかぎり累積標高差を山行案内に記載したいと思う。三重県側鈴鹿山系の他の山とは違うよさを味わえた山行だったと思う。

標高差478m、YAMAP:9.1km、7時間51分、累積標高差833m

ヒヤリハット なし



雨乞岳山頂



雨乞岳から東雨乞岳



御在所岳・鎌ヶ岳



雨乞岳山頂



七人山の七人



トリカブト

雨乞岳例会 感想

米田 佳子

○ずっと雨続きの連休の中なんとか晴れてくれそうな予感です。雨乞岳、思っていたより奥深くアップダウンの繰り返しがキツく登り累計は倍くらいになりました。ルート迷いも多いみたいで注意看板も結構有りました。雑木林と爽やかな沢沿い渡渉を繰り返し中腹辺りで鎌ヶ岳、御在所岳、イブネ山が目の前に現れて登って来たんだと感動しました。遠くには伊勢湾と市街地、左に目を向けると琵琶湖もチラッと見えました。途中トリカブトの群生、シロモジの木、沢山のキノコにいやされました。そろそろ頂上に着く頃から急にガスが出てきて強風は吹くし景色はどんどん見えなくなっていました。雷鳥の様に熊笹の陰に小さくなって隠れてランチタイムをとりました。どんどん体感温度は下がりじっとして居られない位になり下山しました。雨乞岳の頂上付近に小池(大峠ノ沢)があってそこをかき混ぜるとあめが降ると言われてるそうです。それを今度は見つけたいと思います。途中で七人山(所有者が七人だったらしい諸説あり)も登ってみてこんなに広い頂上が有るなんてと思いました。下山途中にCLの「ラクー」の叫び声。なんだろうと思うと15cm位の石が転がって来ました。見上げると猿が投げてるじゃないですか？Nさんが「こらエテコ！」と叫ぶと仲間達が猿なのに「ワンワン」と鳴きながら集まりどんどん投げってくるので私達が退散しました。猿との遭遇事件。色々企画して頂いたCL,SLの方、長い運転をして頂いたメンバーの方、楽しく過ごさせて頂いたメンバーの方有難うございました。

蒲田 史

○尾根は笹の中の本道を歩くのがとても気持ちよかったです。眺望もよく、あれは御在所、鎌ヶ岳、イブネと教えてもらいながら、楽しく登って行きました。結構長く感じ、なかなか頂上に着きませんでした。そして登頂後あつという間に霧の中。しかし聞いていた通り、笹原の山頂はとても素敵なお山でした。皆様お世話になりました。ありがとうございました。

伊藤多恵子

○山の名前には似ているものも多い。「白」が付いたものや「龍(竜)」が付いたもの、「駒」が付いたものも多い。「釈迦」と付くのもあちらこちらにあるなあ。逆に、「雨飾山」のように名前に惹かれていつか登ってみたいと思う山もある。「雨乞岳」も一度聞いたら忘れない名前かな。雨の合間の一日だけの晴れ。運に恵まれた。地図で見た時は、標高差の少ない沢沿いの気持ちのいい道を思い描いていた。実際は、段差の大きい箇所や崖をへつるような危険箇所もある所だった。でも、沢沿いの道らしい、北山の雰囲気にも似た変化に富んだ面白いコースだった。頂上付近は一面の笹原。すれ違いが難しい道が続く。風も強い。あわてて手ぬぐいで帽子が飛ばないように縛り付ける。が、御在所に鎌ヶ岳、イブネに遠くの釈迦など鈴鹿山系の峰々がぐるりと見えるのが嬉しい。紅葉は見られなかったものの、気持ちのいいメンバーと和気あいあいのハイキングでした。Hさん、Nさん、長時間の運転、ありがとうございました！